

現状

- AIやIoTなどの急速な技術の進展により社会が激しく変化し、多様な課題が生じている今日、文系・理系といった枠にとらわれず、各教科等の学びを基盤としつつ、様々な情報を活用しながらそれを統合し、課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結び付けていく資質・能力の育成が求められている。
- 学習指導要領においては、学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）や、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成するため、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図ることとされている。（※「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（答申））

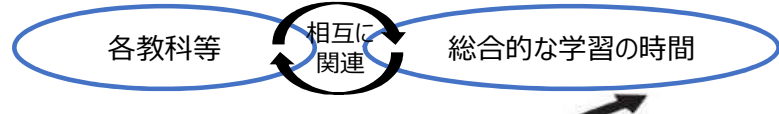
**STEM（Science, Technology, Engineering, Mathematics）に加え、芸術、文化、生活、経済、法律、政治、倫理等を含めた広い範囲でAを定義し、各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な学習を推進することが重要**

義務教育段階においては

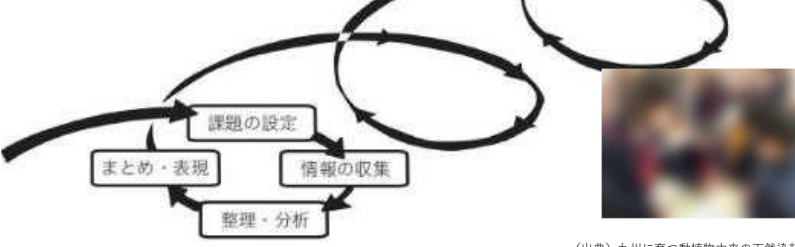
## ① 教育課程全体で教科等横断的な学習を推進する

カリキュラム・マネジメント、各教科・総合的な学習の時間における探究的な学習、ものづくり体験、科学的な体験、プログラミング教育の充実 など

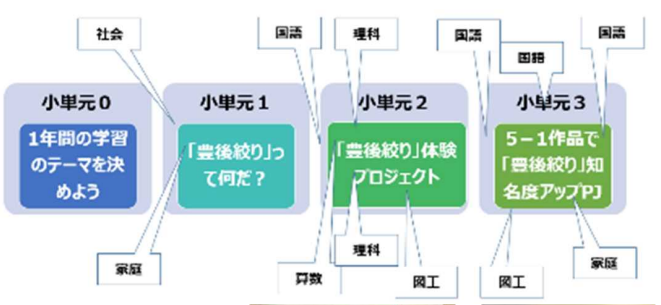
- ① 学校の教育目標と総合的な学習の時間の目標を関連付ける
- ② PDCA
- ③ 内外リソースの活用等連携体制の構築



例) 伝統文化「豊後絞り」を探究する過程において、各教科等の資質・能力及び学習内容を活用・発揮→自覚的な学び



### 【事例】「豊後絞りを広めたい」（70時間）の単元構想



(出典) 九州に育つ動植物由来の天然染料—STEAM教育の染色教材開発のための基礎資料— 都甲 由紀子、大分大学教育学部研究紀要第4 3巻第1号、2021年9月

例) 【中学校3年社会科 公民分野】持続可能な社会を目指して「防災・減災」の視点から地域の実態等を科学的に分析、提案、行動につなぐ

<b>テーマの設定</b>	■ 災害に備えるには		
<b>資料の収集と読み取り</b>	■ 自助、共助、公助、地方自治体の取組等 ■ 地理・歴史、自然環境、財政等の視点		
<b>考察と構想</b>	■ 多様な立場から考察（高齢者、子ども等） ■ 感染症対策の視点 ■ 地形、雨量、過去データ分析 など		
<b>まとめと評価</b>	■ 論理的な構成のレポート ■ 客観的なデータも使って ■ 多様な他者への発信→地域全体の行動化など		

実社会・実生活の中の課題の探究において、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成

義務教育段階においては

## ② 科学・技術分野に特化した課題の解決の場の設定

カリキュラム・マネジメント、各教科・総合的な学習の時間における探究的な学習、ものづくり体験、科学的な体験、プログラミング教育の充実 など

- ① 科学の楽しさ・面白さを体験
- ② 科学と実生活・実社会との関連
- ③ 未知の分野に挑戦する探究心や創造性に優れた人材を育成

**科学の甲子園ジュニア**

**自然事象に対する気付き**

- 課題の設定
- 仮説の設定
- 検証計画の立案
- 観察・実験の実施
- 結果の処理
- 考察・推論
- 表現・伝達

STEAM分野が複雑に関係する現代社会に生きる市民の育成